

平成28年度 北九州市地方独立行政法人評価委員会（第8回）議事要旨

1 開催日時：平成28年11月9日（水） 13：30～15：10

2 開催場所：北九州市役所5階 特別会議室A

3 議事内容

（1）第三期中期目標の報告

第三期中期目標を本市議会に上程し、議決を経た後、大学に指示した旨を報告。

（2）第三期中期計画（素案）に対する意見交換

ア 大学側から第三期中期計画（素案）の説明

イ 第三期中期計画（素案）に対する質疑応答

（ア）他大学との連携について

（委員）他大学と施設等を共同利用し、コストを削減しながらも、全体としてパフォーマンスを上げていく必要があると考えるが、ICT、セキュリティなどは、基本的に単独で実施する方針か。

（大学）他大学との連携については、具体的にどのように進めていくか精査できていないため、計画を実行する段階で視野に入れて進めていきたい。

また、情報教育等複雑化している分野は、複数の大学と協力して遠隔授業を組み込むことも考えている。特に、大学院レベルでは学研都市内での大学間連携が進んでいる。今後、学研都市以外にも広げていく必要があると考えている。

（イ）財務運営について

（委員）アウトソーシング等によるコスト削減や、ひびきのキャンパスにおけるキャンパスシェアの効果を生かした収入増加といった、外部資源を有効活用した財務運営が必要ではないか。

（大学）手法については、中期計画の中で具体的に示すということはしていないが、例えば、インターネット出願などでは、アウトソーシングを導入することにより、業務の効率化を目指している。

(ウ) 起業家(アントレプレナー)の育成について

(委員) 地域活性化のためには、地元就職率の向上だけではなく、起業家教育にも注力すべきではないか。

(大学) 国際環境工学部においては、ベンチャー支援科目を創設し、ベンチャーマインドの向上を推進することを計画に盛り込んでいる。

また、海外の起業家を招き、アントレプレナーの育成を目的とした講義も考えているが、現時点では、今後具体的にどのようなアクションをどのようなスケジュールで起こして進めていくかを検討している段階である。

(委員) 起業には法学や経済学、金融学の知識も必要となる。国際環境工学部のみでなく、法学部や経済学部と連携しながら進める必要があるのではないか。

(大学) ビジネススクールにはすでにアントレプレナー育成のためのプログラムがある。そのプログラムとの連携については今後検討していく。

(エ) 社会人等への教育について

(委員) カリキュラム編成の関係で、働きながら大学院に通うことが難しいという声を聞く。実際に働いている社会人や、アクティブシニア等のニーズを吸い上げて、検討してほしい。それにより、大学院の定員充足率向上にもつながるのではないか。

(大学) ニーズの把握は重要と考えている。また、他大学の社会人プログラム等も参考にしながら、北九州市の地域特性にあったプログラムを検討していきたい。

(オ) 若手教員の育成について

(委員) 研究水準の向上のため、ひびきのキャンパスで行う若手教員育成については、具体的にどのような取組みを実施するのか。また、ひびきのキャンパスに限定された記載になっているが、北方キャンパスにおいても若手教員の育成は重要ではないか。

(大学) ひびきのキャンパスでは、教員の世代交代が激しく、特に取組みを強める必要があり、環境技術研究所を中心に若手研究者の研究支援を目的として、若手教員に重点的に研究資金を配分するなどの取組みを行っている。文系の北方キャンパスとは研究のアプローチが異なるため、別個に考える必要があると考えている。

なお、プロジェクトとして中期計画に掲げてはいないものの、北方キャンパスにおいても、メンター制度や科研費申請のサポート等による育成支援を行っている。

(委員) 10～20年先の成果を見据え、国内外から優秀な教員を集めて、現教員とも競争させながらレベルアップを図るという視点も重要である。

(カ)「世界」、「国際」等の単語の使い方と考え方について

(委員)「世界(地球)」とする一方で、地球規模で考える必要のある「環境」に(地球)はつかないのか。また、世界、グローバル、国際などの言葉がそれぞれ使用されているため、整理が必要ではないか。

(大学)中期目標の基本方針にある3つのキーコンセプト「地域」、「環境」、「世界(地球)」は、本学創立70周年を迎えるにあたり、将来ビジョンとして定めたものである。全学的な基盤教育を担う基盤教育センターの科目の再編は、このキーコンセプトに沿った枠組みで新しい科目をつくっていきたいと考えている。それ以外の部分は、一般的な表現での表記になっている。

(委員)「世界」、「国際」という単語は、それぞれ意味が異なる。ボーダーを意識した上で、それをどう越えて行くかという考え方であれば「国際」、ボーダーを意識せず、地球人を育てるという考え方であれば「地球」という言葉がふさわしい。どちらも大切だとは思いますが、大学がどちらの立場に立つかは、学生にとっても重要な違いであるから、丁寧に使い分けたほうが良い。

(大学)どちらの立場も必要で、多様な視点を持つことが重要だと考える。現在、本学では、外国語学部の教育体制の見直しを検討しているところであり、その中でどういう視点でとらえるか考えたい。

(キ)目指すべきビジョンについて

(委員)人材育成にあたっては、ESDや地方創生、COC+等の取組みの先に、地域を持続的に発展させることに対するビジョンが必要であるから、中期計画の中で将来的な北九州市像について示すことができると良いのではないかと。また、ボランティア的な活動では地域は持続的に発展しない。経済活動として成立するよう検討が必要である。

(大学)中期計画には、中期目標の達成に向けて大学として何ができるかについて、例えば、今回はCOC+で大学も協力して推進していくなど市のビジョンに沿う取組みを記載している。将来的には市の施策について大学としてどのようなビジョンを取るべきかを十分考えて進める必要があると考えている。

(委員)市の施策を待つのではなく、大学が積極的に関与しながら大学から提案する必要があるのではないかと。

(大学)地域戦略研究所をはじめ、市と密に連携した研究を行っている。個別の項目には記述しているが、中期目標に沿って計画を立てる関係上、見えづらい部分はあると思う。大学として様々な形で市と連携を行っている。

(ク) 研究に関する目標について

(委員) 研究に関しては、他の項目に比べて、より具体的な表現となっており、その他の項目との温度差があるように感じる。

(大学) バイオマテリアル分野、エネルギー分野、自動走行システムに関する研究開発の推進については、第三期中期計画における柱に育てたいと考えており、他大学との差別化のために、具体的に記載している。

(ケ) 新規創薬に関する研究推進について

(委員) 新規創薬の研究は、社会貢献につながる取組みとして、今後も積極的に進めて欲しい。

(大学) 薬物送達システム (DDS) などのバイオマテリアル分野の研究は現在も力を入れて取り組んでおり、次期計画に謳っている。次期計画の柱としたいと考えている。